目標・内容の一覧〔国語〕

平成30年3月 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部） 平成31年2月 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）（高等部）を基に静岡県総合教育センター特別支援課が作成

	学部		小学部			中学部		高等部	
目標	教科の目標		言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
		知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語について，その特質を理解し使うことができるようにする。			(1) 日常生活や社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。		(1) 社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
		思考力，判断力，表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け，思考力や想像力を養う。			(2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。		(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。	
		学びに向かう力，人間性等	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに，言語感覚を養い，国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。			(3) 言葉がもつよさに気付くとともに，言語感覚を養い，国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。		(3) 言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。	
	段階の目標		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
	知識及び技能		ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに，いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに，いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に触れ，親しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活，職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
	思考力，判断力，表現力等		イ 言葉をイメージしたり，言葉による関わりを受け止めたりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合い，自分の思いをもつことができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合い，自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け，思い付いたり考えたりすることができるようにする。	イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。
	学びに向かう力，人間性等		ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに，言葉を使おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに，読み聞かせに親しみ，言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに，図書に親しみ，思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに，図書に親しみ，国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに，いろいろな図書に親しみ，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
内容	知識及び技能		ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。						
			(ｱ)身近な人の話し掛けに慣れ，言葉が事物の内容を表していることを感じること。	(ｱ)身近な人の話し掛けや会話な どの話し言葉に慣れ，言葉が，気持ちや要求を表していることを感じること。	(ｱ)身近な人との会話や読み聞かせを通して，言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	(ｱ)身近な大人や友達とのやり取りを通して，言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	(ｱ)日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して，言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	(ｱ)社会生活に係る人とのやり取りを通して，言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	(ｱ)社会生活に係る人とのやり取りを通して，言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
			－	－	(ｲ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	(ｲ)発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	(ｲ)発声や発音に気を付けたり，声の大きさを調節したりして話すこと。	(ｲ)相手を見て話したり聞いたりするとともに，間の取り方などに注意して話すこと。	(ｲ)話し言葉と書き言葉に違いがあることに気付くこと。
			－	(ｲ)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(ｳ)日常生活でよく使う促音，長音などが含まれた語句，平仮名，片仮名，漢字の正しい読み方を知ること。	(ｳ)長音，拗音，促音，撥音，助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	(ｳ)長音，拗音，促音，撥音などの表記や助詞の使い方を理解し，文や文章の中で使うこと。	(ｳ)漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点の使い方を意識して打つこと。	(ｳ)文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。
			(ｲ)言葉のもつ音やリズムに触れたり，言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	(ｳ)身近な人との会話を通して，物の名前や動作など，いろいろな言葉の種類に触れること。	(ｴ)言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	(ｴ)言葉には，意味による語句のまとまりがあること を理解するとともに，話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	(ｴ)理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し，使える範囲を広げること。	(ｴ)表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には，性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。	(ｴ)表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語彙を豊かにすること。
			－	－	(ｵ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により，意味が変わることを知ること。	(ｵ)主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。	(ｵ)修飾と被修飾との関係，指示する語句の役割について理解すること。	(ｵ)接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。	(ｵ)文と文との接続の関係，話や文章の構成や種類について理解すること。
			－	－	－	(ｶ)普通の言葉との違いに気を付けて，丁寧な言葉を使うこと。	(ｶ)敬体と常体があることを理解し，その違いに注意しながら書くこと。	(ｶ)日常よく使われる敬語を理解し使うこと。	(ｶ)日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
			－	－	(ｶ)正しい姿勢で音読すること。	(ｷ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	(ｷ)内容の大体を意識しながら音読すること。	(ｷ)文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	(ｷ)文章を音読したり，朗読したりすること。
					イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
			－	－	(ｱ)物事の始めと終わりなど，情報と情報との関係について理解すること。	(ｱ)事柄の順序など，情報と情報との関係について理解すること。	(ｱ)考えとそれを支える理由など，情報と情報との関係について理解すること。	(ｱ)考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など，情報と情報との関係について理解すること。	(ｱ)原因と結果など，情報と情報との関係について理解すること。
			－	－	(ｲ)図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	－	(ｲ)必要な語や語句の書き留め方や，比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	(ｲ)比較や分類の仕方，辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	(ｲ)情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。
			イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
			(ｱ)昔話などについて，読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	(ｱ)昔話や童謡の歌詞などの読み 聞かせを聞いたり，言葉などを模倣したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ｱ)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き，言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ｱ)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして，言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ｱ)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ｱ)生活に身近なことわざや慣用句などを知り，使うこと。	(ｱ)親しみやすい古文などの文章を音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。
			(ｲ)遊びを通して，言葉のもつ楽しさに触れること。	(ｲ)遊びややり取りを通して，言葉による表現に親しむこと。	(ｲ)出来事や経験したことを伝え合う体験を通して，いろいろな語句や文の表現に触れること。	(ｲ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし，季節に応じた表現があることを知ること。	(ｲ)生活に身近なことわざなどを知り，使うことにより様々な表現に親しむこと。	－	(ｲ)生活の中で使われる慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。
			(ｳ)書くことに関する次の事項を取り扱うこと。					(ｲ)書くことに関する次の事項を取り扱うこと。	(ｳ)書くことに関する次の事項を取り扱うこと。
			㋐ いろいろな筆記具に触れ，書くことを知ること。	㋐ いろいろな筆記具を用いて，書くことに親しむこと。	㋐ 目的に合った筆記具を選び，書くこと。	㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし，文字の形に注意しながら，丁寧に書くこと。	㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら，筆順に従って丁寧に書くこと。	㋐ 文字の組み立て方を理解し，形を整えて書くこと。	㋐ 用紙全体との関係に注意して，文字の大きさや配列などを決めて書くこと。
			㋑ 筆記具の持ち方や，正しい姿勢で書くことを知ること。	㋑ 写し書きやなぞり書きなどにより，筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など，書写の基本を身に付けること。	㋑ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし，平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこ と。	㋑ 点画相互の接し方や交わり方，長短や方向などに注意して文字を書くこと。	㋑ 漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書くこと。	－	㋑ 目的に応じて使用する筆記具を選び，その特徴を生かして書くこと。
			(ｴ)読み聞かせに注目し，いろいろな絵本などに興味をもつこと。	(ｴ)読み聞かせに親しんだり，文字を拾い読みしたりして，いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	(ｴ)読み聞かせなどに親しみ，いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	(ｴ)読書に親しみ，簡単な物語や，自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	(ｴ)幅広く読書に親しみ，本にはいろいろな種類があることを知ること。	(ｳ)幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	(ｴ)日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
	思考力，判断力，表現力等	A 聞くこと・話すこと	聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。						
			ア 教師の話や読み聞かせに応じ，音声を模倣したり，表情や身振り，簡単な話し言葉などで表現したりすること。	ア 身近な人の話に慣れ，簡単な事柄と語句などを結び付けたり，語句などから事柄を思い浮かべたりすること。	ア 絵本の読み聞かせなどを通して，出来事など話の大体を聞き取ること。	ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き，聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして，話の大体を捉えること。	ア 身近な人の話や放送などを聞きながら，聞いたことを簡単に書き留めたり，分からないときは聞き返したりして，内容の大体を捉えること。	ア 社会の中で関わる人の話などを，話し手が伝えたいことの中心に注意して聞き，話の内容を捉えること。	ア 社会の中で関わる人の話などについて，話し手の目的や自分が聞きたいことの中心を捉え，その内容を捉えること。
			イ 身近な人からの話し掛けに注目したり，応じて答えたりすること。	イ 簡単な指示や説明を聞き，その指示等に応じた行動をすること。	－	－	－	－	－
			ウ 伝えたいことを思い浮かべ，身振りや音声などで表すこと。	ウ 体験したことなどについて，伝えたいことを考えること。	イ 経験したことを思い浮かべ，伝えたいことを考えること。	イ 話す事柄を思い浮かべ，伝えたいことを決めること。	イ 相手や目的に応じて，自分の伝えたいことを明確にすること。	イ 目的に応じて，話題を決め，集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	イ 目的や意図に応じて，話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合う内容を検討すること。
			－	－	ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり，考えたりすること。	ウ 見聞きしたことや経験したこと，自分の意見などについて，内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。	ウ 見聞きしたことや経験したこと，自分の意見やその理由について，内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	ウ 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	ウ 話の内容が明確になるように，話の構成を考えること。
			－	エ 挨拶をしたり，簡単な台詞などを表現したりすること。	エ 挨拶や電話の受け答えなど，決まった言い方を使うこと。	エ 自己紹介や電話の受け答えなど，相手や目的に応じた話し方で話すこと。	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ，速さに気を付けて話したり，必要な話し方を工夫したりすること。	エ 相手に伝わるように，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。	エ 資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
			－	－	オ 相手に伝わるよう，発音や声の大きさに気を付けること。	－	－	－	－
			－	－	カ 相手の話に関心をもち，自分の思いや考えを相手に伝えたり，相手の思いや考えを受け止めたりすること。	オ 相手の話に関心をもち，分かったことや感じたことを伝え合い，考えをもつこと。	オ 物事を決めるために，簡単な役割や進め方に沿って話し合い，考えをまとめること。	オ 目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら，計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。
		B 書くこと	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。						
			ア 身近な人との関わりや出来事について，伝えたいことを思い浮かべたり，選んだりすること。	ア 経験したことのうち身近なことについて，写真などを手掛かりにして，伝えたいことを思い浮かべたり，選んだりすること。	ア 身近で見聞きしたり，経験したりしたことについて書きたいことを見付け，その題材に必要な事柄を集めること。	ア 見聞きしたことや経験したことの中から，伝えたい事柄を選び，書く内容を大まかにまとめること。	ア 相手や目的を意識して，見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び，伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して，書くことを決め，集めた材料を比較するなど，伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて，書くことを決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。
			－	－	イ 見聞きしたり，経験したりしたことから，伝えたい事柄の順序を考えること。	イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め，自分の考えと理由などとの関係を明確にして，文章の構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように，文章全体の構成を考えること。
			イ 文字に興味をもち，書こうとすること。	イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り，簡単な平仮名をなぞったり，書いたりすること。	ウ 見聞きしたり，経験したりしたことについて，簡単な語句や短い文を書くこと。	ウ 文の構成，語句の使い方に気を付けて書くこと。	ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
			－	－	－	－	－	－	エ 引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
			－	－	エ 書いた語句や文を読み，間違いを正すこと。	エ 自分が書いたものを読み返し，間違いを正すこと。	エ 文章を読み返す習慣を身に付け，間違いを正したり，語と語との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。
			－	－	オ 文などに対して感じたことを伝えること。	オ 文章に対する感想をもち，伝え合うこと。	オ 文章に対する感想を伝え合い，内容や表現のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。
		C 読むこと	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。						
			ア 教師と一緒に絵本などを見て，示された身近な事物や生き物などに気付き，注目すること。	ア 教師と一緒に絵本などを見て，登場するものや動作などを思い浮かべること。	ア 絵本や易しい読み物などを読み，挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。	ア 簡単な文や文章を読み，情景や場面の様子，登場人物の心情などを想像すること。	ア 様々な読み物を読み，情景や場面の様子，登場人物の心情などを想像すること。	ア 登場人物の行動や心情などについて，叙述を基に捉えること。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。
			イ 絵本などを見て，知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	イ 教師と一緒に絵本などを見て，時間の経過などの大体を捉えること。	イ 絵本や易しい読み物などを読み，時間的な順序など内容の大体を捉えること。	イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。	イ 語と語や文と文との関係を基に，出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。	イ 段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。	イ 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
			ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ，行動すること。	ウ 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き，読もうとしたり，表された意味に応じた行動をしたりすること。	ウ 日常生活で必要な語句や文，看板などを読み，必要な物を選んだり行動したりすること。	ウ 日常生活で必要な語句や文章などを読み，行動すること。	ウ 日常生活や社会生活，職業生活に必要な語句，文章，表示などの意味を読み取り，行動すること。	ウ 登場人物の心情や情景について，場面と結び付けて具体的に想像すること。	ウ 人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。
			－	－	－	－	エ 中心となる語句や文を明確にしながら読むこと。	エ 目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。	エ 目的を意識して，文章と図表などを結び付けるなどして，必要な情報を見付けること。
			エ 絵本などを見て，次の場面を楽しみにしたり，登場人物の動きなどを模倣したりすること。	エ 絵本などを見て，好きな場面を伝えたり，言葉などを模倣したりすること。	エ 登場人物になったつもりで，音読したり演じたりすること。	エ 文章を読んで分かったことを伝えたり，感想をもったりすること。	オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。